

## 第 7 回開催 知事と語る市町村ミーティングinかほく

- 開催日時 平成 23 年 11 月 2 日（水）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
- 開催場所 河北町職業訓練センター 視聴覚室
- 参加者 約 120 名

### <質疑項目>

- 1 職業訓練校の支援強化について
- 2 県立河北病院の充実について
- 3 農商工連携や6次産業の推進について
- 4 女性の社会進出について
- 5 農業の振興について
- 6 教育の充実について
- 7 予防接種への公費助成の継続について
- 8 学童保育における障がい児の受入れ支援について
- 9 卒原発と再生可能エネルギーの利用拡大について
- 10 風力発電施設設置に伴う住民への十分な説明について
- 11 防災、自然エネルギー教育の充実について
- 12 気象観測の教育について
- 13 国道の4車線化について
- 14 原発について慎重な対応を

### 【1 職業訓練校の支援強化について】

★河北職業訓練協会は、河北町より指定管理団体として、このセンターを管理しており、また、認定職業訓練の河北高等技能専門校も運営しております。木造建築科、左官・タイル施工科、建築板金科、建築塗装科の4教科で、今年は1、2年生合わせて26名の若い訓練生が基礎的訓練を各事業所で働きながら学んでおり、先週の29日に行われました第14回訓練校生の競技大会におきましては、2種目で優勝、準優勝し、特別賞として4年連続山形県知事賞をいただいたところです。建築関連の訓練校としては、村山、最上地区で唯一の訓練校で、生徒数も県内で最も多く、元気でがんばっております。また、短期課程も村山地域の方々が主ですが、庄内、置賜からの研修受講者も少なくありません。

こうして職業訓練に寄与できますのも、県当局のご理解、ご指導が土台となっております。これからもがんばっていきますので、知事さん、県当局には今後とも職業訓練の重要性をご理解いただき、これまでもましてご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

### (知事)

はい、本当にありがとうございます。現在の県の景気情勢は、持ち直しと申しますか、回復の兆しが見られるとはされているのですが、最近の雇用の有効求人倍率が、0.65倍でしたか、まだまだ厳しい状況にあると考えております。こうした中で、働く人がさらに技術アップ、スキルアップと申しますが、能力を向上させて、働き口を見つけることは本当に大事なことだと思っております。大事なお仕事をしていただいてありがとうございます。4つの部門で26名の方々が、大変優秀な成績を修められたということで本当におめでたうございます。これからもがんばっていただきたいと思っております。

お話にありました木造建築など、建築関連技能者の育成は必要なものでございまして、県の山形職業能力開発専門校というところでも、建設技術科で木造建築技能者を育成しております。民間においても職業訓練を行っていただいております。お話がありましたように、村山・最上地域の普通課程では、ここ河北高等技能専門校だけになってしまっているということなのですが、大事な仕事の分野でございますので、引き続きご尽力をいただきたいと思っておりますし、県といたしましても、職業訓練施設の運営、施設設備について支援をしてまいりたいと考えております。これからもよろしくお願いたします。町長さんからも何かありましたら。

### (町長)

大変温かいご回答をいただいたわけでありますが、指定管理者になりましたのが今年の4月からで、初年度になります。これまでも職業能力開発機構からの委託を受けてやってまいりましたが、国の機構改革により廃止に伴って、町の指定管理として今やっております。

最上地域、村山地域一円を包含した中で、遠くは金山町からの生徒さんもいらっしゃいます。授業が夜間ですから、非常に地の利もいいわけでありますが、それにもまして指導者の方々がいいんです。匠の町、そういった中で技能に優れた方々が、教育にあたっておられるということでもございますので、今後とも各学科について、県当局からさらにご支援を賜れば大変ありがたいと思っております。よろしくお願いたします。

## 【2 県立河北病院の充実について】

★知事さんとお会いできるなんて夕べ眠れませんでした。今も、まぶしくて言葉にできません。ありがとうございます。一言申し上げます。

小児科の医師不足解消について、県立河北病院では、小児科の医師が1名体制となり、夜間や休日の診療が行われていません。子どもは夜、急に熱を出したり、親が仕事から帰ってから具合が悪いことに気付いたりすることも多くあります。地域の中核病院として、住民が安心して子育てができるように小児科の医師を増やしていただき、夜間や休日に診療が受けられるようにしてほしいと思います。

2番目、老朽化している病室の整備について、昭和56年に建てられてから30年近く経ち設備も老朽化しています。特に病室が狭く、6人部屋では隣のベッドとの間隔が少なく、看護師さんが間に入るのも大変そうです。4、5階の外科の病室は4人部屋になっていて、とてもゆったりとしています。どうか、6人部屋を4人部屋にして、快適に入院できますようにしてほしいと思います。以上でございます。

**(知事)**

はい、本当にありがとうございます。ご質問を2ついただきました。ご要望ということでもあるかなと思いますが、小児科医を増やして欲しいという、本当にそのような方向で考えていきたいと思います。本県には医師不足、看護師さんも不足しているんです。深刻な課題だと思っております。

昨日も、山形大学医学部の教授との懇談会をやりました。これからも、本県の医師養成ということで、県に定着してもらうことなど本当にがんばっていただきたいということで、県としても、医学部へ寄附講座を設けたり、お互いに協定を締結したりやっております。お医者さんに対しての貸付制度を行っております、お医者さんは(卒業まで)6年ぐらいかかりますから、将来は少し緩和されるかなとは思いますが、しばらく時間がかかるということで、もう少しお待ちいただきたいと思っております。

それでも、山形大学のご協力によりまして、週2回小児科医の派遣を受けておりまして、小児科の外来診療体制をなんとか維持しているところでございます。それから妊娠出産ということも大事なことでございまして、周産期医療の分野ですが、昨年、県立中央病院に総合周産期母子医療センターを整備しまして、県内全域の周産期医療をカバーしております。今年4月からは、県立中央病院に新生児ドクターカーという、診療器具を載せた車の中にお医者さんがいて、それで駆けつけて治療するというものを導入しました。河北病院は、県立中央病院から近いものですから、河北病院をはじめ最上の新庄病院など県内全域をカバーしているといえますか、産婦人科や小児科医の不足に対応もしているところでございます。今後、医師確保に向けて引き続き取り組み、しっかりと行ってまいりますので、これからもご理解をお願いしたいと思っております。

2つ目ですが、お話がございましたように築30年位ということで、これまで、施設や設備などの改修工事を計画的に実施してまいりました。なかなか新築というのは大変なことでもございまして、長寿命化といいますか、長持ちさせるということをやっております。お話のあったベッドを6人部屋から4人部屋へすると、ゆったりできるということで、一部そのように対応してございます。2人部屋から個室へという改修も行っております、現在、全部で76病室のうち13病室が6人部屋にはなっているのですが、そこもゆったり4人部屋にしてしまえば、お入りになった方は大変よろしいかとは思いますが、河北病院は、ベッドの利用率が高くて、ベッド数が足りなくなってしまうということもございまして、ベッド数を維持していかなければならないところもあります。入院できなくなってしまうというようなこともございますので、そういうことも含めて、こ

これから総合的に考えながら検討してまいりたいと思っております。

今日のご意見を頂戴いたしましたので、しっかりと踏まえながら検討させていただきたいと思っております。また、今年から河北病院の院長が代られて、菊地先生という乳がんの分野では、高名な方でいらっしゃるしまして、ピンクリボン運動など積極的に取り組んでいらっしゃる方でもありますので、これからも医療の充実に貢献していただけるのではないかと期待をしているところでございます。よろしく願いいたします。

### 【3 農商工連携や6次産業の推進について】

★こんにちは。今日は農商工連携、6次産業化ということで、お聞きしたいと思えます。

県で農業関係に予算を多くとっていただき、我々は知事さんに元気をもらったというようなことで、喜んでおるところでございます。そんな中で6次産業化の推進について、県で示されまして、河北町の町長さんにいち早く取り組んでいただきまして、河北町の商工会さんが中心となって現在、進めているところでございます。秘伝豆を使って、我々が出荷できなかった一粒ぎやとか、二粒、三粒のさやにも一粒が欠けておるといような、くず豆といいますか、そういったものを使って製品を作ってみようということで進めていただきました。

私どもとしても、全面的に協力し、原料を提供していきましようということになりました。町内の加工業者さんや、お菓子屋さんなどがいろいろと試作を作っていただきました。その試作した結果を、先日の「かほくほくほく祭り」の際に皆さんから試食をしていただき大変好評でした。これなら製品として、世に出してもきっと売れるというような確信を得たと商工会さんから聞いております。

これから製品を作っていくためには、さやからむき出すなど相当の労力がかかります。今は機械もありますが、この度の試作のときに宮城県の石巻から機械を1日だけ借りて使いました。業者さんも、加工するには機械を使ってやらなければ到底続くものではないので、資金面もかかります。原料は私たちが、全部続けて提供することになりますが、生産者が直接加工までやるということは、なかなか難しいわけで、商工会さんがその中心になって世話をしてくれてくれるということは、生産者にとって大変ありがたいことでございます。そこで、県としての支援策といいますか、ぜひ続けていただきたいと思えます。県としての考え方を聞きしたいと思えますのでよろしく願いいたします。

#### （知事）

はい、どうもありがとうございます。大変ご苦労様でございます。大変おいしい秘伝の豆ですね。山形の場合「だだちゃ豆」は首都圏で結構知られているといいますか、いろんなところで「だだちゃ豆」というと「あーっ」と言われるのですが、「秘伝の豆」は、いまひとつ知られていないんですよ。私は「庄内はだだちゃ豆だけ、内陸は秘伝の豆なんですよ」と県外に行ったとき宣伝をしております。本当においしい豆ですし、ぜひこれから

も、どんどん生産していただいて販路拡大、付加価値をつけて製品化することで、所得の向上にも結びつきますし、雇用というものにも結びつけていけますので、これからはしっかりと取り組んでいただきたいと思います。県のほうも、6次産業化を大いに奨励してございますし、これまでも食品製造業者と農林漁業者と連携による商品開発の支援ということで、しっかりとやっているところでございます。ますます支援体制を強化していきたいと思っております。

農林水産業を起点とする産出額を3,000億円という、旗を掲げてございまして、その旗をしっかりと持ち、それに向かってみんなで力を合わせて努力していくことで実現できるんだと思っておりますので、結構高い目標ではございますが、皆さま方と一緒に頑張って目標達成にがんばっていきたく思っているところでございます。

そうは言いましても、これは県だけでできることでは全くございませんので、市町村と現場の皆さまとしっかりと手を組んで、連携して、実現に向かって努力していきたいと思っております。県の考え方というのは6次産業化大賛成ということでもあります。補足がありましたら総合支庁からお願いします。そのあと、もちろん町長さんからもお願いします。

#### **(村山総合支庁 産業経済部長)**

知事が申し上げたとおりでございますが、農商工連携、そして6次産業については、ますます力を入れていきたく思っておりますし、村山地域においてもマンパワーや、助成金で支援をしていきたく思っております。今あるメニューとしましては、「やまがた農商工連携ファンド」、「農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業」、そして「やまがた食産業クラスター協議会」によるマッチング事業。こうしたものが主なメニューですが、ほかにも、国とやまがた農業支援センター、総合支庁で総合的に応援していきたいと思っております。

オーダーメイド（「農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業」）のほうは、河北町さんで2件ほど6次産業化の分野で採択になっておりますので、ご紹介申し上げます。以上でございます。

#### **(町長)**

それでは町から申し上げたいと思いますが、先ほどお話がありましたように、ここ数年来「秘伝豆」の栽培面積も増えまして、河北町だけで生産額が約2億円に達しようとしております。おそらく天候が不順でなければ今年2億円が達成できたのではないでしょうかね。

#### **(質問者)**

はい、そうですが、ただ、台風15号のときに豆が倒されまして、そのためにさやが全部

露出したということで、あと気温が34度というような日が2日ほど続いたためにさやが黒くなってしまって出荷できなかつたんです。そんなことで今年は早めに切り上がってしまったということで、量的にはかなりダウンしたということになっております。

#### **(町長)**

そういったことで2億に達する産業までにできましたんですね。商品化できない秘伝豆を加工して、消費地にお届けしようということが商工連携の中で、若い方々と一緒になって今、開発をしてもらっています。

町のほうでも努めて産業化に結びつけて支援をしていきたいと思っていますので、県当局からお話がありましたような連携を深めて、村山地域の「秘伝豆」のブランド化に向けてがんばっていききたいと思っていますし、せっかくの機会ですから、今くる途中、知事さんとB-1グルメの話になりました。町では素晴らしいB-1グルメがまもなく出場する。こういうことでの地域おこしも大したもんだと、お褒めをいただいております。

そんなことで、みんなでがんばってるところでございます。

#### **【4 女性の社会進出について】**

★今日は女性の立場から女性らしい質問を2つほどお聞きしたいと思ってここにまいりました。よろしく願いいたします。

1つは女性の社会進出についてです。女性が社会に進出し大活躍する機会が多くなったような気がいたします。そこで、女性が社会進出する上での環境づくりについて、お話をお聞きしたいということが1つです。

2つ目は知事さんにとって、東北地方で初めての女性知事誕生ということで、私たちは素晴らしく、喜びを感じております。常に知事さんには大変関心をもち、男性の方も関心があるようなんですね。この前、そんなことを聞いて、「ああ、そうか」、私たち女性ばかりでなく、男性の方も大いに関心をもち、テレビ、そして新聞等でそんなことを思いながら拝見させていただいております。2つ目といたしましては、知事が県政を担う上での心構え、どんなことに心がけをして、活躍なさってるか。これは女性らしい質問なんです。ぜひお聞きしたいなと思ひまして、女性の気持ちでお聞きいたします。よろしく願いいたします。

#### **(知事)**

どうもありがとうございます。2つ質問をいただきました。

まず1つ目、女性が社会進出する上での環境づくりというお話だったかと思ひます。そうですね、いろいろあるんですが、確かに私という女性知事が誕生したのは本当に画期的なことだと思ひますし、3年前頃から女性の農業委員も大変増えておりまして、県

内全域で45人ほど女性の農業委員がいるようになったということで、まだまだそれは、足りないといえますか、実際に農業にいそしんでいらっしゃる女性の方も、きちんと農業委員としてしっかりと意見を出せるようになったということ、本当に素晴らしいことだなど思っているところがございます。また、県庁で初めての女性部長も誕生しております、2番目の質問に入っちゃうかな、ダブってもいいですか。私、自分で女性だ、女性だと思って毎日仕事をしているわけでは決してなくて、人間としてやっております、ただ、知らず知らずのうちに女性の視点が出ているということもあるのかなと思います。

例えば今、本県に福島県から1万3,000人の方々が避難しておいでになっておられます。その方々への対応というのは、山形県はきめ細かいと言われるんですが、私が全てやってるといことは決してないんですが、冬になるとなかなか外に出づらくなるので、今のうちに地元の人との交流をやっておいたほうがいいよとか、割と細かい視点みたいなものも出るのかなと思っております。

また、牛肉の全頭検査というものもありましたが、その際も私がおそらく全国の47都道府県の知事の中で、最も庶民に近い知事というか、そのように私は自負しているんですが、消費者の皆さんの気持ちに最も近いかなということもあり、どうしても生産者の方の実情で見ると、あのと1人の、1戸の農家で1頭だけ測定すれば、実情に合うんですよ。同じ餌を食べさせたわけですから。ですが、消費者というのは「自分が食べるこの肉は大丈夫なのか」という視点で見ますから、全部調べてもらわないと安心できないということがあります。飲食店やホテル、旅館でも「自分のところで出すこの肉は大丈夫なんです」と言えないとお客さんには出せないということがあるんですね。そういったことを総合的に考えて、生産者の方が大変なだけけれども、出荷前の全頭検査ということを決断して、結果それが全国で一番早かったということで、全国はその流れになったんですね。

だから、いつの間にかそういう視点が入っているということもあるのかと、あとで思うこともあります。特に女性、女性と毎日思っているわけではなく、女性も男性も県民一人ひとりが私にとっては大事な存在ですので、県民の皆さん、一人ひとりが輝いて生きていける、そういう山形県づくりを目指しております。これはまさに2番目の質問そのものなんですが、それが私の心構えです。女性が社会進出する上での環境づくりというご質問でございますので、本県の場合は働く女性の割合が大変高いですね。そういう場合、お互いに、職場でも働く女性を応援してもらうことが大事でございますので、ワークライフバランスといえますか、働きやすい環境づくりをしてくれている企業を、表彰するという顕彰制度もやっております、職場から意識を変えていただきたいということをやっております。それから県民みんなで子育てを応援する、子育て応援団ということもやっております。

介護もしっかりと、これからやらなきゃいけないかなと思っております。それから、最近のことでいいますと、お父さんが育児休業をとることに対して、育児休業取得奨励金

というものを出しまして、休みやすくし夫婦が協力して子育てを行えるような環境づくりということも政策として推進しております。女性と男性それぞれ助け合って生きていかなければならないわけですので、両方が働きやすい社会づくりにこれからもしっかりと取り組んでまいりたいと思っているところでございます。

では、町長さんもぜひ一言よろしく申し上げます。

#### **(町長)**

はい、婦人文化教室の運営委員長なものですから、男女共同参画も河北町の中では二十数学級あって、河北町ならではの婦人文化教室だと思っておりますが、数えて四十数年になります。そういったことも踏まえながら、女性の立場ということをいろんな面でお話をさせていただいてきたところでございます。よろしくお願ひいたします。

### **【5 農業の振興について】**

★知事さんにお伺いしたいことは、1つは、農業後継者の育成は今後どう取り組もうとしていらっしゃるのか。それからもう1つはお米です。減反政策についてのお考えについて、お伺いしたいと思います。

河北町は、昔から農業が非常に盛んでした。それが今、専業農家といわれるのは数えるほどで、後継者も1人か2人しかいません。このままでは、町も県も農業もどうなるんだろう。そういう心配、不安があります。山形県の農業県づくりということで後継者育成についてどう取り組もうとしていらっしゃるのかを伺いたい。

いつごろから農業後継者が少なくなり、用地が荒れてきたのかなと考えてみたんですが、1つは昭和40年代生産調整という名の下に米の減反政策を行ってきた。日本というのは、瑞穂の国です。農民は心血を注いで米づくりに励んできました。一粒でも多くの米をつくることに喜びを感じた民族だと私は思います。ですから、減反政策というのは農民の魂、やる気、意欲、つくる喜びを奪ってしまった。それから、新聞をみますと世界の人口は70億人です。まもなく90億、100億人になります。温暖化、砂漠化が進んでおり、世界は食糧危機。その不安が高まっているときに、米の減反政策というのはいかかなものなのか。私はやはり転換の時期にきているのではないかと思います。先進国で食糧自給率40%なんていう国はありません。どうか山形県の農業県の知事さんとして、県民に国民に、安心して安全な食糧を提供していただくと同時に、緑豊かな、県の国づくりに取り組んでいただきたいと期待をもっているところです。よろしくお願ひいたします。

#### **(知事)**

はい、どうもありがとうございます。大きいところでいきますと、地球の人口が70億人になったということは、ものすごいことだと思っております。良いとか悪いとかは別にして、つい最近まで60億人だと思っていたら、いつのまにか70億人になってる。これから80億人にいつなるんだろうとか、食糧とあわせて本当に考えなければならない間



題だろうとっております。

私は就任してから、農業というのは成長産業だと言ってきております。それから、国内で農業をやって米だけを作っていると暮らしていけないとか、中山間地域はどうなっていくんだとか、いろいろ課題はあるのですが、世界的な目でみて食糧は不足している。ますます加速していくと、食糧産業というのは、私は強いと思います。

リーマンショックでも2、3年前から世界中が大変で、日本も大変だ、山形も大変だったというときに、食産業は割合落ち込まなかったんです。みんな毎日、必ず食べますから。食べ物は売れるんです。なくならない産業なんです。安定してやっていける産業ではないかなと思うんですね。ただ、本県の場合は、生産してただ販売するというだけだと、本当に市場次第ということになってしまいますので大変です。ですから、加工をして、付加価値をつけて、所得にもつなげてということで、6次産業化ということに力を入れてきています。背景はその考え方です。それから山形県は食糧自給率は、130%ぐらいですから、大震災のときにも山形県内は大丈夫なんです。1万3,000人の方が避難して来ても食糧がなくなったなんてことはないわけですね。

ただ、日本全体ですと、今、おっしゃるとおり40%なのか、もう輸入したものを食べてるといいますか、一旦、もし戦争が起こり、食べ物が入ってこなくなったら、国民は餓死寸前といえますか、40%しかないわけですからね。でも、山形県にとって現実的ではないので、みんなピンとこないかと思うんです。ですから、私はすごい危機感を持っています。日本の食糧自給率をもっとあげていかないと、何か起きたときに大変だと思っています。日本の食糧自給率を上げるために、山形県が食糧供給県としての役割を果たしていきたいということを、国にも申し上げておまして、1次産業である農林水産業をもっと力をつけていきたいと思っています。

私は、農業は基盤産業で、工業は基幹産業と言っているんですが、県内総生産という数字で見ましても、製造出荷額でも多いんです。産業振興をしっかりとやっていかなければいけないんです。ただ、本県の場合は産業振興の中に、食品加工分野も入っておりますので、そこが都会とは違うところかなとも思っております。TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の問題が出ていますが、本県の場合は農業といいますが、製造業と対立するかというところでもなく、食品加工分野ということで、農業は大変大きな影響を持っています。そして農業というのは生産だけではなく加工、流通、販売そして観光にまで全部つながっていますから、本県の場合とても影響が大きいですね。そして商工会の皆さんのお話をお聞きますと、農村部の方が潤うと、商店街に買い物に来て、商店街も潤う。だから、農業の方々が困ったことになると商店街も困るんだよということになる。つながっているんです。少々ややこしくなるのは、農業をやっている方が専業よりも兼業農家の方が多く、4分の1は農業の収入なんだけれど、あとの4分の3は会社に勤めて、現金収入で暮らしているという方も結構おられます。ですから、農業をやっている、家に帰ってくるとTPPは反対、でも会社に行っているときはTPP賛成。山形県の中にも

そういった方が、結構いらっしゃるんですよ。だからそこら辺が、一枚岩ではないということになります。TPPの話になると、いろいろなことになってしまいますが、そこだけの問題ではなく、医療や建設業などいろんなところに関係していくので、単純な対立軸ではないんですが、ですからもっともっと情報開示をして、国民的な議論をしてから、策を考えたらいいんじゃないか、慎重に、慎重にと申し上げてきているんですがね。

ごめんなさい。1点目の後継者育成でございますが、おっしゃったように、農業人口は、確かに減少しておりますが、本県の場合、農業の新規就農者というものは、ここ2年間ほど、1年間で200名を超えております。特に農業以外からの新規参入が増えておりまして、法人雇用などがありますので、就農形態も様々となっております。農業法人に就職するということもあり、増加傾向というものは確実なものにするために、現在国で検討されている新たな制度っていうものも活用しながら、担い手の育成確保ということに取り組んでいく所存でございます。

それから減反についてのご質問をいただきましたが、私自身は減反すると耕作放棄地みたいになるようでもったいないなと思っておりました。山形市内の田んぼで春に減反して秋に行ってみたら、私の身長を超すぐらいの雑草がたくさん生えていて、1年間減反をすると元に戻すのに3年かかるとかですね、大変なことになると現場の方がおっしゃっていました。ですから、本当にもったいないなと思ってます。やはり農家の方のやる気がそがれると言いますか、本当にもったいないなと思っております。大転換期ではないかとおっしゃったことは、本当にそう思います。今、食糧というものを増やしていかなければならない時期に、そういう方向でいいのかということはおっしゃりたいと思っております。私の考えとしましては、生産をどんどん増やして、加工など様々な製造出荷を行って、山形県をもっと元気になっていけると思っております。そのことについて、総合支庁からも補足してください。

#### **(村山総合支庁 産業経済部長)**

まず新規就農者のお話でございますが、全国的にも平成22、23と増えてきている傾向でございます。そこで河北町のことをご紹介いたしますが、平成17年は6名、18年が1名、19年がゼロです。20年が3名、21年が2名だったのですが、国と県とそれぞれ新規就農者にいろいろな支援の手を差し伸べる施策を講じております。そうした結果、平成22年が17名の新規就農者があり、全体で、226名の中の17人は河北町の新規就農者だったということでございます。

施設設備や運営資金について、いろんな手立てを講じている成果が出ているのかなと思っております。それから減反については、大変高度に、政治的なお話でもありますので、私から特にお話することは無いのですが、大事な農地は守って産出額アップに、われわれとしてはつなげていきたいというふうな考えでおります。

**(知事)**

農林水産大臣も山形県の選出の国会議員ですので、現場の声をあげていかななくてはならないですね。何か高度なこともあるのかとは思いますが、やはり現場からの声をあげていくことは大事だと思います。どうもありがとうございます。

**【 6 教育の充実について 】**

★去年でしたか、「県民のあゆみ」に知事さんが戸沢村を訪問した際に殉難の碑に花を手向けて、手を合わせてる写真を拝見しました。それからまた知事さんが、知事になって間もなくだったと思うのですが、飛島に介護の仕事のために引っ越してきた家族がいて、小学生が2人おり、知事さんが学校を再開してくれたんですね。そのことが印象に残っておりまして、「ああ、吉村知事さんというのは、弱い立場の人、教育というものを非常に大切にする方だ」と思いました。知事さんへ2つほどお願いしたいと思っております。知事さん失礼しました、教育界の専門家でもいらっしゃる……。

**(知事)**

そんなことはないです。

**(質問者)**

いや、そう私は感じているところですが、それで2つほどお願いします。

1つは、少人数学級「さんさん」プランがまもなく完了するようにはありますが、高校まで「さんさん」プランの導入実現についてお考えをお聞きしたいです。

それからもう1つは、そのためには優れた教員養成が制度を含めて必要ではないかと考えます。「さんさん」プランについては、前の高橋和雄知事さんが全国に先駆けて実施をしている。あのとき、全国の知事会から非常に高い評価を受けたんですね。そして今は文部科学省を動かして、35人学級を実現した。それで今、山形県の高校進学率が99.3%で全国2位です。素晴らしいプランですので、引き続いて高校まで、ぜひ導入し実現をはかっていただきたい。

さらに高めるためには、優れた教員が必要で、専門性が要求されてきているのではないかと思います。国づくり、県づくりは人づくりだと思います。教育だと思いますので、教員の養成を含め、「さんさん」プランの高校への導入、教員の養成に取り組んでいただきたい。そして、人づくりによって活力ある県づくりをお願いしたいと思いますし、ご期待を申し上げたいと思います。よろしくお願いたします。

**(知事)**

はい、ありがとうございます。本当に人づくりというのは大事なことだと思っております。来年度、24年度の県政運営の考え方ということで、人材育成を全ての基本に据え

るということを出し立てしております。大変な状況であるからこそ、とにかく人づくりに力を入れていかなければいけないとされているところでございます。今日は教育ということで、ご質問、ご提案いただいたと思っております。お話がありましたように、「さんさん」プランは、高橋和雄知事が全国に先駆けてはじめたこととございます。ちょうどそのとき、私は教育委員だったんですね。その思い入れというものもございまして、自分が知事に就任してから、そこはしっかりやらなければいけないということで、今年度で小学校から中学3年までの義務教育は、一貫して完全実施ということにこぎつけたわけとございます。

これは知事が教育をどうするというようなことではないのですが、教育委員の方のお話ですと、他県の委員さんたちから「うらやましい」、「削れ削れと言われこんなお金のないときに、山形県はお金かけているのね」と言われたということをお聞きしました。確かに、人づくりが本当に大事だという思いがあるものですから、これからも人づくりにはしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますし、「教育委員会がんばれ」と私は言っています。やはり独立行政委員会でございますので、教育委員会がしっかりとその分野は担っていただきたいと思っております。こちらは応援する立場ということで、自分が教育委員だったから、こういうふうにやれと言われるよりも、教育委員会がこういうふうにやりたいんだと言ってもらって、そこに予算をつけるかつかないかというふうなものになるのではないかと考えているんです。

今年度とにかく義務教育9年間完全実施になりましたので、大事な県民の皆さん、国民の皆さんの税金を投入してやっているわけですが、やはり成果といいますか、教育というのは今すぐ成果というのは出ないんですが、目標というようなものもありましょうし、教育の質を高める、それは学業面であり、生活面であり、多方面であるかとは思いますが、成果というものもお示しをしながらやっていくのが政策だと思っているものですから、ただ、さんさんプラン導入の14年度から一気にここまでということで、もう少し時間をくださいという感じとございます。予算を伴うこととございますし、もちろん教育にはしっかりとこれからも力を注いでいきたいと思っております。

確かにその教育、「さんさん」プランを実現したから教育全部が良くなるかと、そうではないと思っております。むしろ「さんさん」プランがなくとも、先生が良い先生だと良い教育ができるんですというのが、私の実感です。私はこの西郡で生まれ、この西郡で教育を受けて本当に幸せだったと思っておりますが、やはり良い先生に恵まれると、何て言うんでしょうね、人生本当に良くなると思っておりますか、いい先生に恵まれる、お会いする、出会う、それが私は本当に、親もそうですが、いい先生に出会うことが大事なかなと思っております。

ですから、教員の質をあげるということは、最も基本的なことだと思っておりますし、6年にしたほうが良いというようなことがございましたが、どういうふうにしていくのかな。学び続ける教師と言われますが、そういうことが大事だと思っておりますし、県の教育委

員会では、担任力の向上ということで研修プログラムを作成していると伺っております。県教育センター、各市町村教育委員会で教員研修を実施していくと伺っておりますので、しっかりやっていただきたいと思っております。

教員の資質を高めるということに、しっかりと取り組んでいくよう、私からも言っていきたいと思っております。簡単に「すぐこうします」ということではなく、大変申し訳ないんですが、教育に力を入れていくということで、長い目でみていただければと思っております。

## 【7 予防接種への公費助成の継続について】

★今日は予防接種への公費助成の継続、支援についてのお願いです。子どもは地域の宝です。県民のあゆみの、「にっこり知事室」に知事さんが書いてらっしゃいました。そのとおりだと思います。今後も子育て支援の充実のために子宮頸がん予防ワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチン接種の県の公費助成をぜひ、継続、実施していただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

### （知事）

はい、「にっこり知事室」も見ていただいていると本当にありがとうございます。いつもちょっと恥ずかしいなと思ひながら、写真を載せたりしておりますが、今おっしゃった3種類のワクチン、子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンですが、現在、公費助成ということで行われておりますが、大変皆さんからよろこばれております。家計の負担軽減はもちろんです、地域の格差もなく平等で望ましいことだと受け入れていただいていると思っております。

国の審議会におきましても、予防接種法上の定期接種に位置づけるという方向で検討すべきだという意見書が出されているようでございます。これを受けて、国で、予防接種法の対象疾病・ワクチンの見直し、副反応など安全性の評価、費用負担のあり方などについて検討しているところでありますが、現在のところ、国から明確な今後の対応方針というものは示されてございません。

ですが、私も今、ご意見にもあったように、これは定期予防接種に位置づけるということで、国の責任で全国一律にやることが望ましいと考えておりますので、国に働きかけているところです。平成24年度国の施策等に対する提案というものを各県から出すのですが、そのことをしっかりと国に働きかけているところでございます。このことについての国の検討状況も踏まえながらですが、県としても予算編成の中で検討していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

### （質問者）

無料化が、ここ1年だけで終わるのはとてもつらいというか、子育てする方にとって

は大変なことだと思います。これからの世代を担うのは本当に子どもたちです。ぜひ、お願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

## 【8 学童保育における障がい児の受入れ支援について】

★学童保育所の運営につきましては、町から委託事業として手厚く補助を受けており、県からも補助をいただいております、大変助かっております。

近年ですが、学童保育所の入所児童の中に、障がいがある児童が増えている状況です。本クラブでも平成19年度から障がい児を受け入れており、現在は6名ほど在籍しています。共働き家庭を支援しながら、子どもたちの放課後の安全な保育をするためには、少々人手不足かなと思っているところです。運営もまだまだ厳しい中ですので、補助金等の拡充をお願いしたいということで、知事さんのお考えをお聞きしたいと思います。よろしく申し上げます。

### （知事）

はい、どうもありがとうございます。そしてご苦労様でございます。

学童保育、私は大事な分野だと思っておりました。いろいろな形態があつたり、所管がいろいろだったり、さまざまな課題があるのが学童クラブだという認識をもっておりました。大事な次代を担うお子さんたちが、学校が終わってから、親御さんが帰ってくるまでの間行くところ。そして近年は、近所で遊ぶ子どもが少ないものですから、働いてる親だからということでもなく、子どもたちがいるところで過ごさせたいということで、学童保育をお願いする保護者もいると聞いております。そのような状況になっていますか。

### （質問者）

はい、共働き家庭がほとんどなんですが、やはりおじいちゃん、おばあちゃんがいらっしゃっても、集団の中で遊ばせたいとか、（おじいちゃん、おばあちゃんが）追いかけて行くのが大変だとか小学生の遊びについていけないのでということで預ける方もおります。

### （知事）

そうですね、ありがとうございます。

年々、障がいのあるお子さんが増えており、現在は6名が在籍されているということで、本当にご苦労様でございます。障がいのあるお子さんへの対応が増えているという現場の声を踏まえまして、県として障がいのあるお子さんへの適正な対応が行えるよう

に、障がい児を受け入れている放課後児童クラブの運営支援を行うとともに、各種研修会を実施して、指導員の資質の向上を図っております。障がい児受け入れ推進費という施策名で運営費を補助しているところです。

また昨年度から新規事業として、発達障がい児に関する保護者及び地域住民の理解を深めるための普及啓発事業や各放課後児童クラブに専門のアドバイザーを派遣する事業を総合支庁単位で実施しております。現在、国において、社会全体で子どもと子育て家庭を応援する社会の実現をしようということで、子ども子育て新システムの検討を行っているところです。

放課後児童クラブにつきましてもサービスの質の向上、利用ニーズに即した支援の拡充ということが、検討されている最中でございます。全国知事会でも子ども子育て支援プロジェクトチームというものをつくって、施策提言ということもやっております。今日いただいたご意見も伺いながら検討していきたいと思っております。村山総合支庁からもお願いします。

#### **(村山総合支庁 保健福祉環境部長)**

知事の発言とダブるところございますが、村山総合支庁管内におきまして、現在、教育事務所と連携しまして、放課後児童クラブの指導員などを対象に、今年度6月に、発達障がいについての理解を深め、指導員等の資質向上と発達障がいのある児童への支援を目的に講演会を開催しております。

また、発達障がいの疑いのある子どもさんへの支援に関して、アドバイザーを派遣するという事業を行っておりますが、これは、アドバイザーが直接、放課後児童クラブを訪問いたしまして、児童への対応について指導助言を行うということで、今年度これまで管内114クラブのうち21クラブを訪問しております。まだ河北町のご利用はないので、ぜひ河北町の放課後児童クラブにおきましても、積極的にご活用いただきたいと思っております。

あわせて発達障がいに関する分かりやすいリーフレットを作成しておりまして、各関係機関に配布しており、市、町の窓口にございますので、保護者の方や町民の方々にもぜひご覧になっていただきたいと思っております。今後とも総合支庁といたしましても、社会全体で子育て家庭を支援していくという姿勢で、取り組みを進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

- 【 9 卒原発と再生可能エネルギーの利用拡大について 】**
- 【 10 風力発電施設設置に伴う住民への十分な説明について 】**
- 【 11 防災、自然エネルギー教育の充実について 】**
- 【 12 気象観測の教育について 】**

★知事が提唱されている「卒原発」の理念に賛同し、それが実現されることを願って、せんえつですが3点ほど質問と意見を述べさせていただきます。

卒原発には、再生可能エネルギーの利用拡大が大きなポイントとなると思いますが、風力や小水力、太陽光発電の適地を探す段階から自治体及びその住民を参加させるべきだと考えます。新聞報道などによりますと、一部自治体ではその芽が出ているようにもみられますが、そうすることにより地域、民間の知恵と資本を活かすことができるし、地域産業の育成にもつながると思います。県はアメダスの気象データを持っていると思いますが、アメダスでは把握できない地域も県内にはあると思います。例えば山間部や沢沿いの山風、谷風。また、最上川とその支流の川沿いの風、海風など。それから、小水力発電の適地などは、その土地に生活する人のほうが知ってる場合があるのではないのでしょうか。住民参加によって環境アセスメントへの理解も得やすくなるかと思えます。市町村単位、あるいは総合支庁、または分庁舎単位に適地を探す作業チームを設置するというのも1つの方法ではないかと思えます。

2点目。風力発電の風車の設置等により、景観が変化するので地域住民の反対が起こることも予想されます。観光に大きな支障がなく、景観法等の法規に抵触しない限り、それを寛容に受け入れるよう、住民に行政が説得すべきではないのでしょうか。景観というものは、時代とともに変化をするものです。また、人と自然、人と人がつくるものでもありますから、これは新しい産業の景観だということで受け入れてもらうように指導していただきたい。むしろ、問題なのはこの辺でもいわれませんが、山地の表土をはいで植生を破壊して土砂を採取する行為により、景観が損なわれているところが一部あります。この村山盆地にもずっと前から目立ちます。べにばな国体のときも被覆工事をした山がありましたが、数百年から数万年かかってできた植生を元に戻すということはなかなか困難です。

次に3点目。卒原発、再生可能エネルギーの利用、防災等は、次代に引き継がなければならない課題であろうと思ひ、教育上のことを2点ほど述べさせていただきます。

1つは気象観測の教育です。気象観測について、以前は、各学校に気象観測場があり、百葉箱の中に気象観測用の機器類が備えられておりました。ところが、最近、どういうわけか、各学校から姿を消しております。気象観測場や百葉箱が見られなくなってるわけです。天童の教育センターには百葉箱がありますが、学校にはなく、一体学校で気象観測に関する教育をやっているのか。この気象観測による科学的素養の養成というのは防災はもとより、自然エネルギーの活用、あるいは地球環境問題を考える基礎、原点になるのではないかと考えております。宇宙天体だけではなく、もう少し気象現象に生徒の興味、関心を向かせるべきだと考えます。

百葉箱などをすぐには整備できなければ、学校の屋上に、風向、風力、風速計を立てる。あるいは太陽光発電パネルで発電量を自分で観察させる。また、温度計のない教室も学校によってはあるのではないかと思います。そういうことないように温度計を教室に備えることから、はじめたらいいのではないかと思います。

次に日本は地震列島、台風の来襲国ですので、防災教育にも力を入れてほしいと思ひ



ます。この度の福島原発事故により、文科省が放射能、原発事故についての副読本をつくっているようですが、不足の部分は県で副教材を用意してもよいのではないかと思います。生徒に真実を教え、科学的知識と態度を身につけさせてほしいと思います。原子力が平和利用の美名の下、原子力政策がすすめられたのは、私が中学生の頃でした。いつのまにか、この地震列島に原発が54基にもなり、福島の原発事故の惨状が起きました。政治の姿勢は良かれ悪しかれ教育に表れます。若者に未来のある教育を一日も早く築いていくべきであると考えます。以上です。

### (知事)

はい、どうもありがとうございます。卒原発に賛同いただいて、本当にエールをいただいたと思っております。山形県に原子力発電所がないのに、どうして原発を卒業しようと言ってるんだと思っておられる県民の方も、中にはいらっしゃるのかなと思うものですから、簡単に説明させていただきます。

私も最初から思想的なものを持っていたわけではないんです。ただ、3月11日に大震災が発生して、最初に山形県は大停電が起きました。皆さんあのおとき3月11日は、まだ寒かったですよね。最初53万6千戸でしたかね、大停電。そして4月7日の余震のときには、さらに多くの59万戸ぐらいだったと思いますが、大停電になりました。1回目の停電の時は、ライフラインの復旧まで30時間ぐらいかかりましたが、2回目の時には11時間ぐらいで復旧したんですね。ただ、もう大変なことだと、まず電力について思いました。

そして原発事故、いまだに収束してないんですね。そして国民の健康不安。特に福島県民の方々は、本県に1万3,000人近くの方々が、宮城県も合わせて1万3,000人ですから、ほとんどが福島県民ですが、その方々にとっても人生変わってしまったわけですよ。今まで例えば、ここ河北町で平和に暮らしていらっしゃる皆さんが、ある日突然何かことが起きて、行ったこともないような県に避難しなければならないことになることになると、大変なことだと思いますよね。実際、そういう生活をされている方がいらっしゃるわけですよ。2万人ぐらいの方が大震災でお亡くなりになったり、行方不明になったり、本当に痛ましい出来事です。福島県は隣の県ですから、できる限りの支援をしていきたいと思っておりますが、私たちだけでなく、私たちの子ども、そのまた子どもという何代にもわたって放射線というのは影響を及ぼしていきます。長期的に影響を及ぼすものが放射線ですね。そして、福島県だけでなく、汚染稲わらのときに、全国に稲わらが普及し、牛肉が大変な問題となりました。秋田の知事と一緒に台湾に観光プロモーションに行っただけですが、観光にもいらっしゃらないんですね。外国人はピタッと来なくなりましたし、国内でも東北に行きたくないということで、団体客の方がいらっしゃらない。個人の方は少し戻ってきているんですが、福島を通して行きたくないというようなお声もあるということで、しかもそれだけでなく東北のものを食べたくない、逆に応援したいという

方も間違いなくいらっしやって、被災県3県のアンテナショップなどは20倍もの売れ行きとお聞きしておりますが、山形県は1.2倍か1倍ということで、あまり影響はないのですが、それどころか農畜産物、山形県も隣りだから危ないだろうというようなことで苦戦をしております。そして毎日、放射線測定をして、旬のものは必ず放射線を測定して「安全ですよ」と言いながら売っているわけなんですね。

観光にしても、食料にしても大変、実害を本県も受けております。そのようなことで全く影響のない県の知事ではないということは申し上げたいと思います。いろいろ考えたときに、日本は地震国。そして、福島で1発電所でこれだけ長引いていて、冷温停止までまだまだ時間がかかることが考えられます。もし、西日本でもう1基、何らかのトラブルで原発事故が起きたら、西日本もおかしくなってしまう。東日本も、西日本もといった場合に日本という国が大変な目で見られて、外国から観光客が来なくなったり、物が売れなくなったりしたら大変なことになると思います。

とにかく今すぐ原子力発電を止めろと言っても現実的ではないので、将来的に何十年とスパンを考えて、代替エネルギーを使いながら、再生可能エネルギー、自然エネルギーを増やして行って、いずれ原発依存から卒業をしましょうということを提言しているわけですね。

今、お話をいただきましたエネルギー政策というのは、そもそも国策でございます。山形県が実施して国全体ができるというようなことではないんです。例えばドイツやデンマーク、スウェーデンなどもそういった方向に向かっているんです。ですが、日本はまだそういう明言はしておりません。ただ、再生可能エネルギーを増やすということは言い出しておりますといいですか、変な表現ですが、そのような方向に行くと政府は言っておりますので、そこをもっと押していかなければならないと思っております。

再生可能エネルギーの活用適地調査については、県の生活環境部で、はじめておこなって、県内において、風力だったらどの辺が適地なのか、水力、地熱、太陽光、木質バイオマスなど、本県の場合は、70%以上が森林なわけですから、木は豊富にあるわけですね。いろんなことが考えられます。県内のどの地点にどのくらいのエネルギーがあるのか、県の生活環境部において活用適地調査を今年度いっぱいやる予定です。地域のことは地域が一番分かるのではないかといいご意見ですが、全くそのとおりだとも思っておりますので、そういうご意見もいただきながら調査してまいりたいと思っております。それから、ベストミックスと私は呼んでいますが、太陽光、風力、水力、木質バイオマスなどという、ベストミックスを考えていくときに、有識者の方々と一緒になって、県で、エネルギー戦略策定委員会というものを設置して検討をはじめております。今年度内に3回会議を開催して、山形県としてできることは何か、できることからやっということではじまっているのですが、まず産業界に私が呼びかけまして、盛り上げていきたいと思っておりますのでございます。

この間、町長さんもいらっしやいましたが、市町村の首長さんと議長さんたちが一堂

に会して、私との意見交換会があったのですが、その場でも、市町村の皆さんもオブザーバーとして参加していただければありがたいですと申しあげました。市町村からも意見として、早く情報がほしいというご意見もいただいたところでございましたので、市町村、産業界と一緒に再生可能エネルギーということを考えていきたいと思っております。

また、景観についてはまさしくおっしゃるとおりでございます。それから、3つ目の気象観測教育はどうなってるのかということについては、教育事務所からお話をしてもらいたいと思います。防災教育、本当にハード整備だけではもう無理だっていうことは今回の津波で分かったと思います。ソフトといいますか、自分のことは自分で守るからはじまって、お互いに守りあうといいますか、自助、共助ということが本当に大事でございますので、教育現場でも防災教育をやっていくという方向だと聞いております。そのことに関して教育事務所からお願いします。

#### **(村山教育事務所)**

貴重なご意見をいただきありがとうございます。

まず、自然エネルギー利用の学習についてです。ご指摘のとおり、これから自然エネルギーに関する学習が重要な課題でありまして、環境教育という観点から、理科の学習を中心に総合的にすすめているところです。教育の現場でも認識は高く、学校によっては環境教育全体指導計画を作成したり、環境 ISO の学校版を実践したりして、資源の大切さや、エネルギーの有効活用について学んでいるところであります。また、小学校はこの度教科書が新しくなり、中学校は来年度新しい教科書を使用するわけですが、教科書の中でも太陽光や風力などの自然に優しいエネルギー、これをどう利用していくかという内容も含んでおりまして、次の時代を担う子どもたちが正しい知識と正しい判断力をもって生きていけるように、校長会議や学校訪問等で指導しているところです。

2点目ありました防災教育のテキスト作成についてですが、つい先ほど山形県防災教育ビジョンという案が出されました。それを受けまして、今後作成の手続きに入ります。その内容、4点ほど申し上げます。1つが山形県の災害の歴史を知る。それが内容です。2つ目が、正しい知識を身につけ判断力を養う。

3つ目が、自他の命を尊重する。4つ目が、学校における防災対策の充実。こういった内容で作成する予定です。3点目、放射能に関しても言及がなされましたが、放射能汚染についても多くの情報が出ておりますので、児童生徒はもちろんのこと、指導者も正しい認識を持って対応できるよう、研修の充実を図っていきたいと考えているところです。

なお、全体的な防災教育につきましては、何よりも大切なのは、児童生徒が自分で判断して危機を回避し、自分の命は自分で守る。これを大切にしたいと思っております。

1つ目は想定にとらわれない。2つ目にはその状況のもとにおいて最善を尽くす。3つ目に率先避難者たれということで、そういった心の教育を重視しようということであ

ります。以上です。

**(司会)**

はい、大変丁寧な説明ありがとうございました。だいぶ時間も押してきてますので、これでよろしいでしょうか。

**(質問者)**

ありがとうございます。ただ、1つだけ、気象観測の教育について、気象観測機械の取り扱いや、百葉箱がほとんどの学校から消えてるんです。それはどういう訳なのか。学校では備品の販売業者も、観測用具も販売してるはずですが。なぜ気象観測をやらないのか。宇宙や天文のほうだけ生徒が興味を持つのではちょっと。いろいろな環境問題や防災、自然エネルギーなど日本の教育では不足をしているのではないかと思うのですが。

**(村山教育事務所)**

教科書の内容を見ますと、学年にそういった気象観測の内容も出てきております。その辺などもやはり自分で観測するということが非常に大事ですので、ただ今ご指摘があったことを大いに奨励していきたいと思えます。

**(司会)**

どうもありがとうございました。時間もだいぶ経過して、予定の時間もだいぶ迫っております。ここで皆さま方には大変申し訳ないのですが、男性の方1名、女性の方1名に限らせて、ぜひご意見を申し上げたいという方がおいででしたら。

それでは手を挙げてる方、その2名の方だけでお願いしたいと思えます。よろしくお願ひします。要点だけ手短にお願ひします。

**【13 国道の4車線化について】**

★1点だけお願ひします。わが河北町では国道4車線化、河北病院、それから高校再編問題の3点セットで今までやってまいりました。おかげさまで谷地高の再編はまずまずの形を得ました。河北病院も先ほどの方々のご質問で、だいたいの大枠が分かりました。

さて、国道4車線化でございますが、宮城県あるいは太平洋と日本海との最短距離で大変重要な路線だと思えます。道路は経済及び生活の産業基盤でございます、冬になりますと谷地橋から約5kmほどの渋滞がはじまります。国道4車線化ということでは、大変、苦勞をしておりますが、ここで西郡出身の知事でもありますし、西郡出身の県会議員もお二方おいででございますので、それから河北町の町長も最優先課題に掲げております。もちろん私も町民も一括して、何んとか4車線化を実現させていただきたいということで要望は出しております。何んとか3本の矢ならぬ、4本の矢、そしてまた私ど

も町民はみんなで4車線化を待ち望んでおりますので、特段のご支援、ご協力をお願いしたいということを申し上げたいと思います。以上です。

**(知事)**

はい、ありがとうございます。本当に道路というのは大事なものだと思っております。今すぐお応えできるというわけではありませんが、本県の道路、インフラ整備ということにしっかり取り組んでいきたいと思っております。

今日のご要望を承りまして持ち帰らせていただき、また、県会議員の先生方もいらっしゃるし、町長さんもいらっしゃるし、復興に力を入れていきたいという私の思いもありますので、ただ、県内のいろいろな優先順位ということもあり、また町の優先順位ということもお伺いしながら、やっていきたいと思っております。今日はどうもありがとうございます。

**【14 原発について慎重な対応を】**

★1つがお願い。原発は幸いにして山形県にないのですが、エネルギー政策ということで知事さんも言うておられますが、原発については慎重にお願いしたい。答えは必要ありません。

もう1つは、知事室と知事さんを、テレビで見たときはあるけれど、学校の生徒みたいには団体だと見学ができるのかどうか。できるとすれば、どこにお願いすればいいでしょうか。お願いします。

**(知事)**

はい、ありがとうございます。「お答えいらない」ということでしたが、お答えをさせていただきます。「原発、将来本当に卒業したいね」と、これは政治家が言っていかなければならないと思っておりますし、まず国民の皆さんが声をあげていくことが一番大事かなと思っております。一緒になって声をあげていきたいと思っております。知事室の見学は秘書広報課長が来ておりますので、お願いします。

**(秘書広報課長)**

県庁見学はいつでも承っておりますので、ここに担当の主幹がおりますので、あとで、ご要望をお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

**(知事)**

はい、どうもありがとうございます。ぜひ、いらしていただきたいと思っております。知事室は県民皆さんのお部屋でございますので、お待ちしております。

以上